別紙2（様式第2号）

地域振興推進費事業計画・自己評価書　（実績）

提出区分	実績	整理番号	10	課題区分	C
横断的な課題	3穏やかに暮らし続けられる地域づくり				
地域重点政策	3穏やかに暮らし続けられる地域づくり				

令和6年（2024年）3月29日

上田地域振興局

実施機関	上田地域振興局	担当課	所属	農地整備課
事業名	棚田の学校子育て支援事業		電話	0268-25-7130
			E-mail	uedachi-nochi@pref.nagano.lg.jp

事業の概要等		
	目的（目指す姿）	・発達障がいや不登校の児童生徒について、屋外での活動体験を通じ社会とふれあう機会を創出し、児童の心のケアを実施する。
	現状と課題	・農業資産である棚田は、日本の原風景とも呼ばれる日本固有の景観を有しており、多くの来訪者に心の癒しを与えている。 ・管内の稲倉の棚田（上田市）では、都市住民交流として棚田オーナー制による農作業体験のほか、どろんこ遊びや豊富な生態系を活用したビオトープ＆ネイチャーゲームなど、子供向きのイベントも多数開催されている。 ・上田管内不登校児童生徒の児童生徒総数に占める割合については上田市で公表されており、R2年度データで小学生1.52（県1.31、全国1.00）、中学生5.32（県4.35、全国4.01）と非常に高い傾向にあるとともに、その割合は小中学生とも年々増加傾向にある。また、発達障がい児童生徒数は不明だが、発達障がいと診断されたり、疑われる子どもが増加しており、発達障がいに悩む保護者や子ども達が大幅に増加しているのが現状である。このことから発達障がいの児童生徒及び不登校児童生徒に対する子育て支援は、管内の重要な課題である。
	内容（変更後の内容）	子どもたちの社会性のスキルアップを図ることを目的とした棚田の活用方法を検討するため、上田管内の発達障がいや不登校の児童生徒が、心の癒しを感じられる棚田における農作業体験を通じて棚田保全活動を行う人々との交流を行う実証実験を行い、体験者側、受入れ側双方の課題を抽出する。 ①農作業体験イベントの開催（各10名程度を想定） ・稲倉の棚田を活用し、田植えや稲刈り等農作業体験イベントの開催（6月、9月） ②農村体感イベントの開催（各10名程度を想定） ・生態系観察会や焼き芋体験など体感イベントの開催（10月） ③体験者側、受入れ側の課題整理（12～1月）
	事業期間	令和5年(2023年) 5月　～　令和6年(2024年)1月

事業費等（単位：円）

事業を構成する細事業名等	実施内容	計画額	備考
農作業体験イベントの開催	田の草とり・生体系観察等、稲刈り体験	186,635	委託料　186,635
農村体感イベントの開催	棚田デイキャンプ	114,425	委託料　114,425
実施体制の整備	課題整理	0	
合計		301,060	

指標及び達成状況

成果指標	目標値	成果	達成状況
農作業体験イベントへの延べ参加者数	20名	6名	○ 達成 ○ 一部達成 ◉ 未達成
農村体感イベントへの延べ参加者数	20名	11名	

事業実績・成果

【実績】
・農作業体験は、天候により、開催日が延期になったり、当日のキャンセルなどで参加者が少なかったが、参加者は、受入側の丁寧なサポートにより、主体的に取り組む様子が見られた。
・農村体験は、大勢は苦手、予測つかないことは怖いなどの様々な症状のある児童生徒が対象であることから、受入側からの提案により、全員で取り組むのではなく、自由に各々活動できる内容で開催したところ、目標値（各10人）を上回る11人の参加があった。開催時間も午前(10:00～12:00)で2回を想定したが、時間にゆとりができるよう1回で1日（10:00～15:00）でイベントを開催した。
・毎回イベント終了後は、参加者同士で遊ぶようになっており、棚田の自然環境が緊張感を解いてくれたようだった。
・参加した保護者からは、久しぶりに生き生きした子供の姿が見れてよかった、育児ストレスが少し軽くなったなどの好評をいただいた。
【成果】
・棚田での交流は、児童生徒だけでなく保護者も短時間だけでもその緊張が軽減され支援につながった。
・アンケート結果から、興味を示している子どもが多いことから、棚田での体験は、棚田スタッフ、また参加者同士の交流により、子どもたちの社会性スキルアップに効果があったと思われる。

今後の方向性	・受入側が各症状に対する特徴や対処など知識を得る機会をつくり、棚田での農作業体験や保全活動を行う人との交流を通じて子供たちが社会性スキルアップできるような支援を行っていく。